

もろかずお Vol.13 ニュース



議会
録画配信

北本をずっと 住み続けたい街にする

北本市議会議員 れいわ新選組公認

毛呂一夫 (もろ かずお)



公式ホームページ



ご意見箱

ご意見・ご相談お寄せください

☎080-5871-3536



お詫びと訂正

Vol.11の「令和7年度北本市一般会計予算 議案第9号 毛呂が反対した議案」(右記)において、不正確且つ誤解されるような表現がありましたことをお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正いたします。

＜訂正＞条例では森林環境整備基金は、緊急時、災害対応時には使えませんが、その施策が森林の整備に関するものであれば、基金の一部を活用される可能性はあります。

【議案第9号】(Vol.11より)

令和7年度北本市一般会計予算(当初予算)

①さんた亭の椅子交換に森林環境譲与税を利用して予算化。1脚@64,000円で40脚を計画。県支出金(森林環境譲与税)だが、こんな金銭感覚は全く市民目線、住民目線、納税者目線とはなっていない。民間業者の椅子購入で十分。森林環境譲与税を無理から使う為の予算化としか考えられない。この森林環境譲与税は森林環境整備基金に積立てれば、緊急時、災害対応時にはその基金は流用できます。

令和7年 第2回北本市議会定例会 一般質問



① 市民が便利に移動できるまちについて

路線バスの利便性向上について

令和6年9月5日～24日に調査した住民意識調査の中で、他市町村に移りたい理由51.0%断トツ1位は、交通の便がよくないからというものでした。

路線バス計7路線の利用者数は、R3年とR6年対比では微増でした。バスの利用勝手向上で利用人数が増えれば、赤字路線極小化・補助金削減及び外出機会の創出・フレイル予防効果UP、市の医療費負担も減少という道筋が見えてきます。

公共交通関連の質問をすると必ず“運転手不足”というワードが出てきます。バス運転手の雇用実態一定年延長含めた労務管理はどうなっていますか？

公共交通バスを取り巻く環境は、少子高齢化や一般的に2024年問題と言われている運転者の時間外労働の上限規制、労働基準の見直しなどを要因に深刻な運転手不足となっております。

運転手の募集を行っても応募は少なく、恒常的に運転手不足が続いているのが実情です。なお、バス事業者ではすでに定年延長、再雇用等を行っており、65歳以上の運転手も多数在籍しているとのこと。

バス利用勝手向上の一助として、時刻表内の0便時間帯に呼び鈴型乗車意思表示スイッチを設置し、乗車意思表示のあるバス停にバスを回すということの実証実験を進めて欲しい。

市内を運行する路線バスは、決まった路線を決まったダイヤどおりに運行する路線定期運行です。0便時間帯に呼び鈴型乗車意思表示スイッチを設置し、必要な時に呼び出す運行は、路線不定期運行となり、バス事業者が国土交通省の許可を受け運行している形態と異なることから、導入は困難であるとの見解でございます。

《総括》交通の便がよくないことが一番の問題であると市民意識調査で明確になった。運転手不足がかなり深刻であり、市の職員(公務員)が運転を行う行政版ライドシェア(※)の構築が必要な段階に来ている。9月定例会ではこの点について質問予定。

※地方自治体が主体となって行うライドシェア(自家用有償旅客運送)。公共交通機関が不十分な地域や、高齢化が進む地域での移動手段を確保することを目的とする。特定の時間帯や地域に限定して、一般ドライバーが有償で旅客輸送を行う「日本版ライドシェア」とは異なり、自治体が主体となって運行管理を行う点が特徴。



↑デマンドバス
ハイエース



↑デマンドバス シエンタ